

# 海上保安庁の救助・救急体制

---

- 1 海上保安庁の救助体制
- 2 救急員体制の拡大
- 3 救急救命士・救急員の実績

海上保安庁 警備救難部 救難課  
医療支援調整官 佐々木 崇夫

# 1 海上保安庁の救助体制

## 特殊救難隊

所属 羽田特殊救難基地

人数 38名

※ 救急救命士または救急員を配置

## 機動救難士

所属 航空基地等（全国に9か所）

人数 各9名

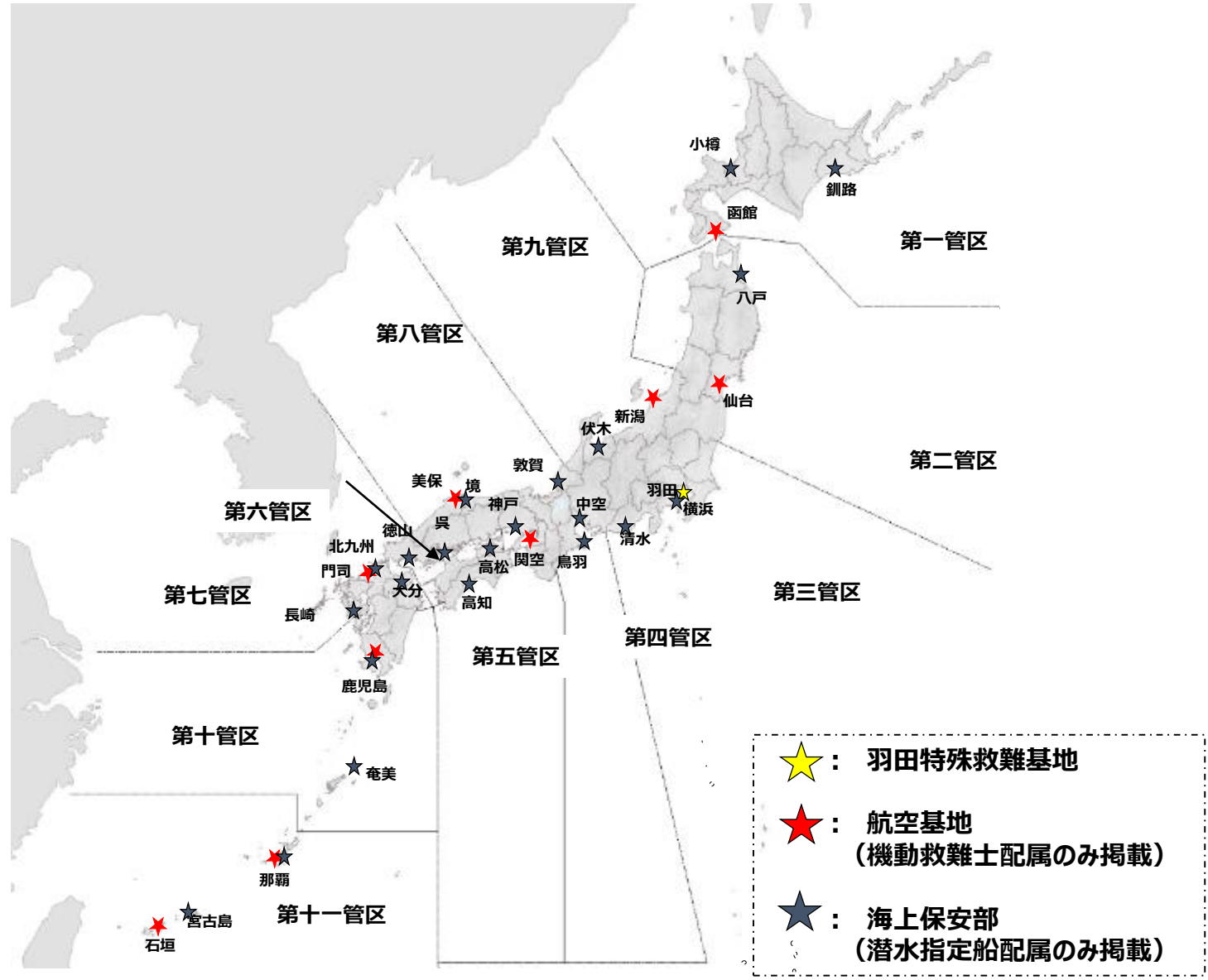
※ 救急救命士または救急員を配置

## 潜水士

所属 潜水指定船（全国に22隻）

人数 各4名または7名

※ 救急員を配置（新規）



## 【 救 助 部 隊 の 特 色 】

|   | <p>潜水</p>  | <p>航空救難</p> | <p>救 急</p> | <p>火災危険物</p> |
|---|--|-------------|------------|--------------|
| <p><b>特殊救難隊</b><br/>Special Rescue Team</p>       | <p>高度な知識・技術を必要とする特殊海難における人命・財産の救助<br/>潜水・60m<sup>※3</sup> 「リベリング降下」等 (ロープを使って自力で降下) 救急救命士・救急員を配置</p> |             |            |              |
| <p><b>機動救難士</b><br/>Mobile Rescue Technicians</p> | <p>ヘリコプターと連携した吊上げ救助等迅速な人命救助<br/>潜水・8m<sup>※2</sup> 「リベリング降下」等 (ロープを使って自力で降下) 救急救命士・救急員を配置</p>        |             |            |              |
| <p><b>潜水士</b><br/>Diver</p>                       | <p>潜水技術を必要とする海難における人命・財産の救助等<br/>潜水・40m 「ホイスト降下」等 (ウインチを使って降下) <b>新規 救急員を配置</b></p>                  |             |            |              |

※1 CBRNE : Chemical(化学), Biological(生物) Radiological(放射性物質), Nuclear (核) Explosive(爆発物)に起因する災害。

※2 航空機の搭乗を考慮して、一定の制限を設けている。

※3 混合ガス潜水資器材を使用した場合に限り、深度60mまで潜水可能。

### 救急員とは

養成  
+  
教育

➢ **各都道府県消防学校の専科教育救急科を修了**  
→約2か月間（250時間） ※例年15名程度が参加

または

➢ **同等以上の学識経験保有者**  
→医師、看護師、救急救命士等の医療免許保有者

| 就業時教育      | 生涯(継続)教育 | 技能回復再教育                  |
|------------|----------|--------------------------|
| 初めて指名を受ける時 | 技能の維持    | 指名解除後、2年以上経過後に改めて指名を受ける時 |

※部内研修及び部外研修（救急車同乗研修、病院実習）を必要な時間履修

※参考：救急救命士の場合  
 ➢ 専門学校へ入学し救急救命士国家資格を取得（2年間）  
 ※例年4名程度が入学

救急員として発令可能


### 救急員が行う応急処置

海上保安官


救急救命士が行う救急救命処置 ※救急救命士法  
 《医師の具体的な指示が必要な救急救命処置》  
 ・気管挿管等による気道確保、輸液（点滴）、薬剤投与（アドレナリン、ブドウ糖液）

**救急員が行う応急処置** ※救急員の行う応急処置等の基準（海保告示）  
 ・医療器具を用いた観察（聴診器・血圧計・心電図・パルスオキシメーター）、気道異物の除去、酸素投与、自動心マッサージ器、吸引器、バッグバルブマスクによる人工呼吸等

一般海上保安官が行う応急手当て  
 ・医療器具を用いない観察（体温・脈拍・呼吸数・意識状態・瞳孔の観察・顔貌の観察）  
 ・心肺蘇生法、AED、圧迫止血、骨折の固定、体位管理、保温等



血圧計による血圧の測定



バッグバルブマスクによる人工呼吸

#### 【制度創設】

- 平成31年4月1日に救急員制度を創設
- 救急救命士を補助して行う応急処置を実施可能とし、救急体制をより一層充実させる。

#### 【実績】

- 対応件数：247症例、応急処置等1089件（H31.4.1.～R2.12.31）

#### 【事後検証】

- 庁内検証、医師検証の実施
- 海上保安庁メディカルコントロール協議会総会で審議
  - ⇒ 令和3年3月、救急員単独での応急処置実施の承認
  - ⇒ 令和3年8月、救急員単独での応急処置実施の運用開始

#### 【体制拡大】

- 関係規則等の改正。令和3年8月、救急員単独での応急処置を開始
- **令和4年度巡視船への配置開始**



【平成31年4月救急員運用開始】  
・救急救命士の補助



【令和3年8月】  
・救急員の単独処置開始

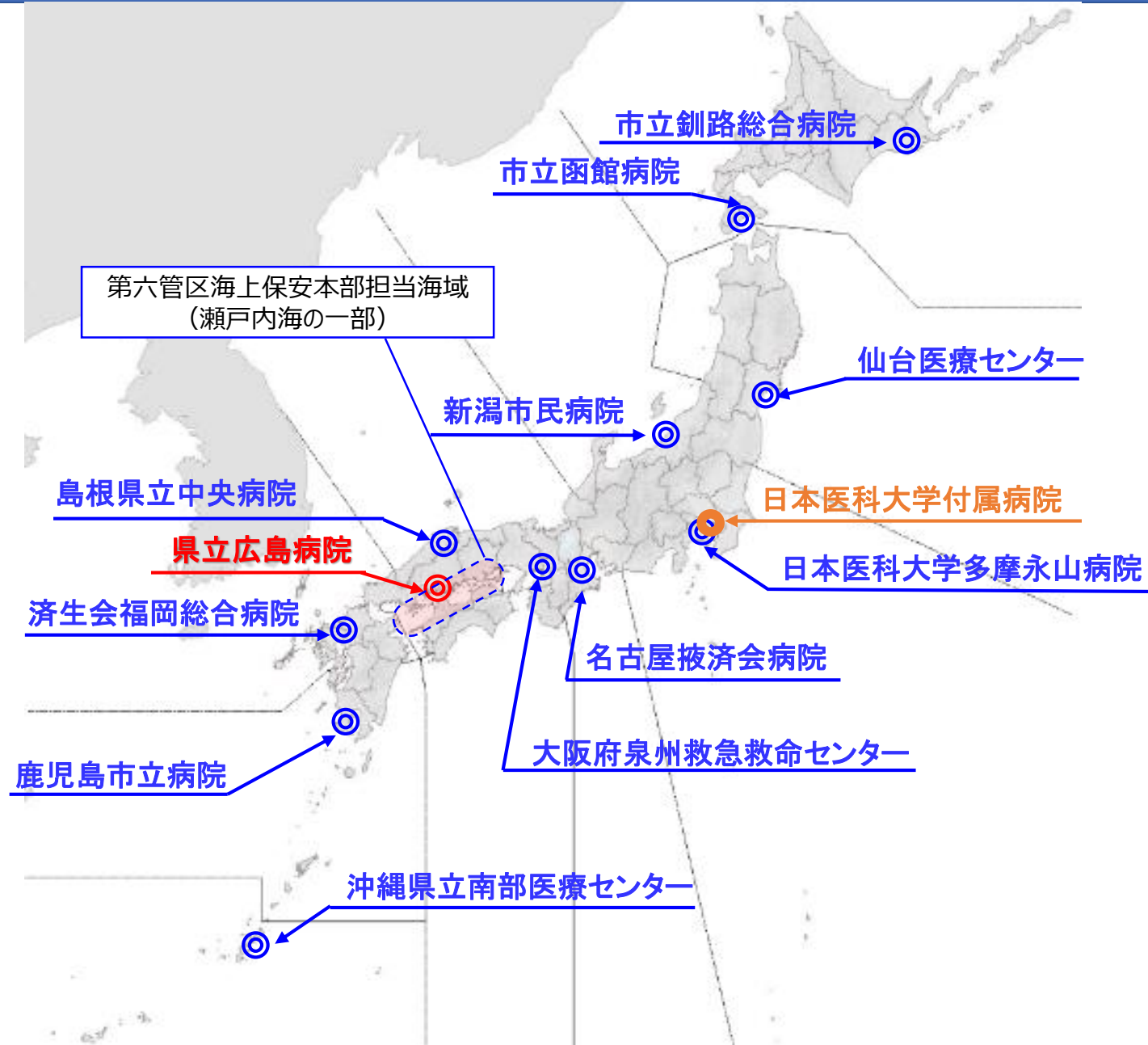
## 2 救急体制の拡大

### ○ 医療機関との連携拡大

- 救急体制の強化のため、新たに第六管区海上保安本部の巡視船に救急員を配備
- 「県立広島病院」と協定を締結。当該管区の救急体制において、
  - 救急員の応急処置に対する指導、助言体制の確立
  - 救急員の技能維持・向上のための病院実習体制の確立

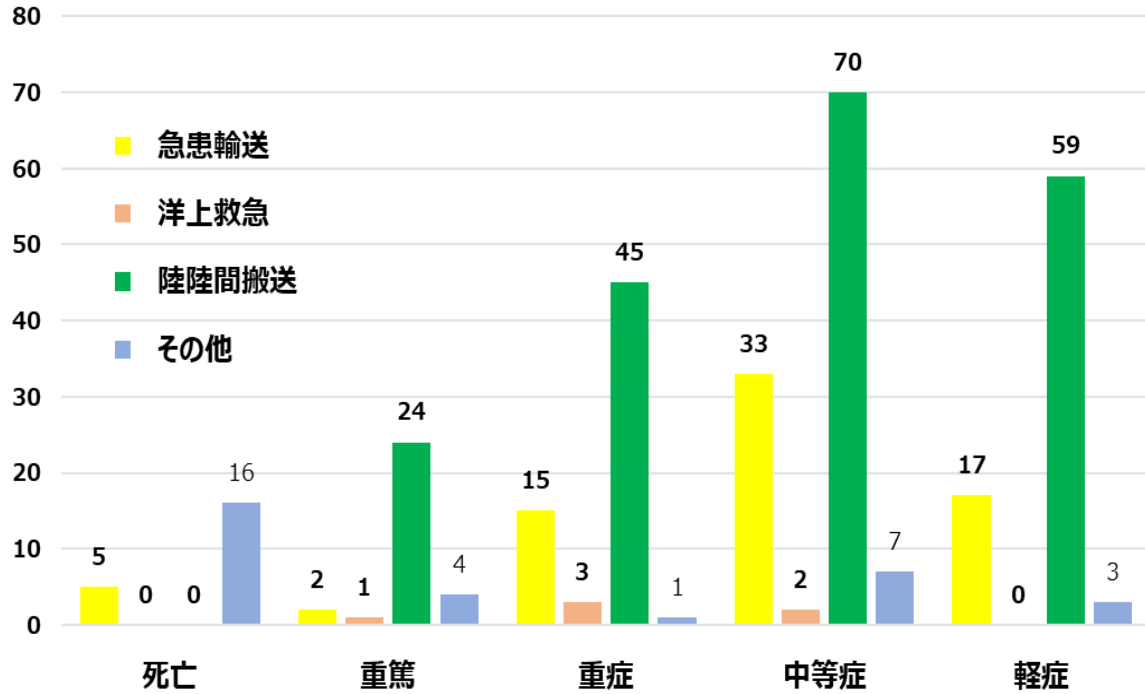
| 指示医療機関           |
|------------------|
| 市立釧路総合病院         |
| 市立函館病院           |
| 仙台医療センター         |
| 日本医科大学多摩永山病院     |
| 名古屋掖済会病院         |
| 大阪府泉州救急救命センター    |
| <b>新規 県立広島病院</b> |
| 済生会福岡総合病院        |
| 島根県立中央病院         |
| 新潟市民病院           |
| 鹿児島市立病院          |
| 沖縄県立南部医療センター     |

| 検証医療機関     |
|------------|
| 日本医科大学付属病院 |



### 3 救急救命士・救急員の実績

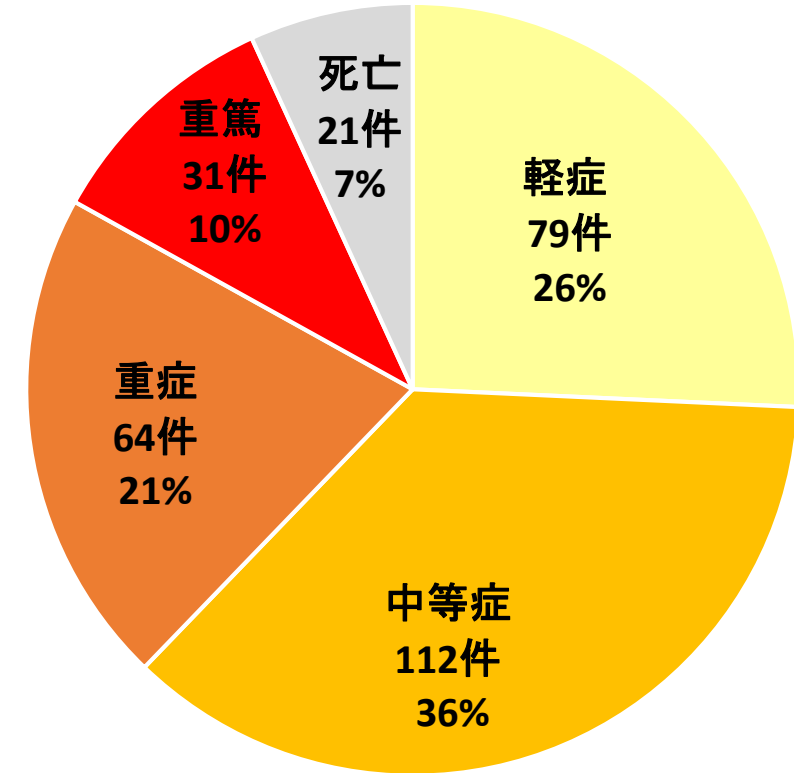
重症度・搬送別



|     | 急患輸送 | 洋上救急 | 陸陸間搬送 | その他 | 計   |
|-----|------|------|-------|-----|-----|
| 死亡  | 5    | 0    | 0     | 16  | 21  |
| 重篤  | 2    | 1    | 24    | 4   | 31  |
| 重症  | 15   | 3    | 45    | 1   | 64  |
| 中等症 | 33   | 2    | 70    | 7   | 112 |
| 軽症  | 17   | 0    | 59    | 3   | 79  |
| 計   | 72   | 6    | 198   | 31  | 307 |

- 急患輸送 : 傷病者発生による救助要請で、当庁職員のみに対応
- 洋上救急 : 日本水難救済会の事業で、当庁の巡視船艇・航空機により、医師・看護師を現場に輸送し、救急往診を実施
- 陸陸間搬送 : 地方自治体からの要請により、医療従事者同行の上、傷病者を搬送
- その他 : 上記3つに属さない傷病者の搬送

重症度内訳



- 重症度別の分布状況は例年通り中等症以上が多い状況
- 件数は、前年度と同様に新型コロナウイルスの対応に影響を受け、例年の約2倍